



## 権限委譲できる部下を育てる、AI時代に必要なフィードバック力



「部下に仕事を任せたいが不安で任せきれない」「指示したのに部下が期待通りに動かない」。こうした悩みを抱える管理職は少なくありません。

当社が社内外のアンケート結果をもとに整理した現場の声でも、「結局自分でやった方が早いと感じてしまう」「主体性を持たせたいが、指示待ちから抜け出せない」といった声が多く聞かれました。また、「言ったつもりでも、意図通りに伝わっていないことが多い」などのコミュニケーションの課題もあり、結果として権限委譲が進まない状況が生まれています。

これらの悩みをもたらす要因は、管理職個人のスキルだけの問題ではありません。背景には、今の時代における働き方やマネジメントの変化があります。

AI時代のマネジメントは「任せる力」が前提になる

生成AIの普及により、業務の進め方は大きく変わっています。これまで時間をかけていた資料作成や情報収集、アイデア出しといった業務は、AIによって短時間で実行できるようになりました。その結果、仕事の価値は「作業そのもの」から、何を判断し、どのように活用するかへと移っています。つまり、部下はこれまで以上に自分で考え、判断しながら業務を進める必要があります。管理職が細かく指示する余地は減り、任せることが前提のマネジメントへと変化しています。

管理職の役割は「判断基準の提供」へ

こうした環境では、管理職が担うべき役割も変わります。単に手順を教えるのではなく、判断の軸や考え方を共有することが重要になります。実際、管理職の役割としては「チームで成果を出すための舵取り役」「部下が力を発揮できる環境を整えること」といった認識が多く見られます。

一方で現場では、「自分の業務で手一杯で、マネジメントに時間を割けない」「正解がない中で判断を求められるのがつらい」といった声もあり、新たな役割への適応が課題となっています。また、「上の意向と現場の実情が合わず、どう落とし込むか悩む」「正解がない中で判断を求められるのがつらい」といった状況も、任せる判断を難しくしています。

フィードバック力が権限委譲の成否を分ける

従来は、上司が正解を持ち、それを部下に伝えることで業務が回る場面も多くありました。しかし、AIが一定の答えを提示できる現在、上司の役割は「答えを出すこと」ではなくなっています。

重要なのは、その答えをどう評価し、どう使うかを判断する力を育てることです。このとき不可欠になるのがフィードバックです。部下がAIを使って出したアウトプットに対して、「どこが良く、どこを修正すべきか」「なぜその判断が必要か」を伝えることで、判断力が育ちます。

任せるためには「答えを教える」だけでなく「思考プロセス」を共有する

権限委譲とは、単に業務を渡すことではなく、判断を任せることです。そのためには、結果だけでなく、思考のプロセスを伝えるフィードバックが必要になります。現場でも、「結論だけでなく背景も説明するようにしている」という工夫が見られますが、AI時代においてはこの重要性がさらに高まってい

ます。

判断できる力を育てるには個別最適な関わりが前提になる

「主体的に動いてほしい」といった指示だけでは、AI時代の業務には対応できません。必要なのは、状況に応じて自ら判断できる力です。そのためには、行動と結果を結びつけ、なぜそうなるのかを伝えるフィードバックが不可欠です。

現場では、「全員に同じやり方が通用せず、対応に迷う」「若手と価値観が違い接し方に悩む」といった声が見られます。AI時代は、スキルや経験の差だけでなく、AIの使いこなし方によっても成果に差が出ます。だからこそ、一人ひとりの状況に応じたフィードバックが必要になります。

AI時代のフィードバック実践ポイント4つ

1. AIのアウトプットを前提にフィードバックする

部下がAIを活用して業務を進める場合、成果物は一定水準に達していることが多くなります。そのため、「できているかどうか」ではなく、どの部分をどう改善すれば価値が高まるかに焦点を当てる必要があります。

2. 判断基準を言語化する

AIは情報を生成できますが、最終判断は人が行います。その判断基準を明確に伝えることが、部下の成長につながります。

3. 小さく任せて検証を繰り返す

「小さく任せて成功体験を積み重ねている」という現場の工夫は、AI時代にも有効です。AIを使った業務も含めて、試行とフィードバックを繰り返すことで、判断力が磨かれます。

4. 対話を通じて思考を引き出す

「まずは話を聞くことを意識している」という姿勢は、AI時代においてさらに重要になります。部下がどのようにAIを使い、どのように考えたのかを引き出すことで、より効果的なフィードバックが可能になります。

AI時代のマネジメントはフィードバックで決まる

「育成の時間を確保できない」という悩みは多く見られます。しかし、AI時代においては、フィードバックを怠ることの影響はさらに大きくなります。判断力が育たないままでは、AIを活用しても成果は頭打ちになります。一方で、適切なフィードバックによって判断力が向上すれば、部下は自律的に動き、管理職の負担は軽減されます。つまり、フィードバックは生産性を高める投資です。

生成AIの普及により、仕事は「作業」から「判断」へとシフトしています。この変化の中で、管理職に求められるのは、部下に任せながら成果を出す力です。その中核にあるのがフィードバックです。フィードバックを通じて判断基準を共有し、思考力を育てることが、権限委譲を可能にします。まずは、自身のフィードバックが「行動だけでなく思考を変えているか」を見直すことが重要です。

株式会社インソース より

【M&A速報、コラムを日々配信！】X（旧Twitter）で情報を受け取るにはここをクリック

【M&A Online 無料会員登録のご案内】6000本超のM&A関連コラム読み放題!!  
M&Aデータベースが使い放題!!登録無料、会員登録はここをクリック